



JIN-AI

新春号

平成28年1月発行

# じんあい

編集発行 社会福祉法人 仁愛会 広報推進プロジェクト 発行責任者 織内かほる

高砂荘 木もれ陽  
 ヴィラ白鳥  
 白鳥の里デイサービスセンター  
 くらしの郷  
 仁愛グループホーム  
 仁愛ケアプランサポートセンター  
 ホームページ  
<http://jin-ai-kai.jp>

〒972-0161 いわき市遠野町上遠野字沢繁16番地の17  
 E-mail : info@jin-ai-kai.jp  
 ●特別養護老人ホーム 高砂荘・ショートステイ TEL▶(0246) 89-3288  
 ●高砂荘デイサービスセンター TEL▶(0246) 89-2860  
 ●小規模多機能型居宅介護 木もれ陽 TEL▶(0246) 74-1611  
 ●木もれ陽デイサービス TEL▶(0246) 74-1611

〒970-8043 いわき市中央台東島3丁目1-7  
 E-mail : kurashino@jin-ai-kai.jp  
 ●くらしの郷ミドル&ショートステイ TEL▶(0246) 29-0191  
 E-mail : kurashino-ds@jin-ai-kai.jp  
 ●くらしの郷デイサービスセンター TEL▶(0246) 29-0193

〒972-8325 いわき市常磐白鳥町寺丁田23番地の1  
 E-mail : v-shiratori@jin-ai-kai.jp  
 ●ミドル&ショートステイ ヴィラ白鳥 TEL▶(0246) 84-7161

〒972-8325 いわき市常磐白鳥町寺丁田23番地の4  
 E-mail : shiratori@jin-ai-kai.jp  
 ●白鳥の里デイサービスセンター TEL▶(0246) 72-1011  
 E-mail : csc@jin-ai-kai.jp  
 ●仁愛ケアプランサポートセンター TEL▶(0246) 88-8920

〒970-8002 いわき市平中平窪字扇田28  
 E-mail : j-gh@jin-ai-kai.jp  
 ●仁愛グループホーム TEL▶(0246) 25-0033

## 平成28年 各施設リーダーに聞く今年の「目標と抱負」

新年を迎え、本誌発行にあたり座談会が開かれました。今号では、参加した中から各施設生活支援室長の三澤、新妻、門澤の3名に今年の目標と抱負を伺いました。  
 「構成、撮影：平田」



座談会参加者。写真上段左から、大越賢一（副本部長）、門澤恵介、三澤博行、新妻真典。下段左から、上遠野理恵（副本部長）、織内かほる（本部長）、織内雅美（副本部長）



特別養護老人ホーム 高砂荘 生活支援室長 三澤 博行

平成28年の目標は、「利用者様の処遇について考える」です。昨年、業務改善の取り組みを行った中で、改めて「利用者様一人ひとりの望む暮らし」が実現できるよう、利用者様、ご家族、各種専門

職が協働で支援をしていきたいと考えます。そのためには、①入所前面接による利用者様、ご家族の状況、希望を事前に実態を調査して確認、調査結果に基づき入所検討委員会を開催。双方の合意を得て円滑に入所ができるようにする。②入所後は、一定期間を設けて生活状況を把握した上で環境への適応アセスメントをする。③ケアプランを立案する際には、各職種協働による適切かつ正確な情報によるアセスメントを完成させ、利用者様、ご家族を交えた中での個別ケア会議にて話し合いを持ち、合意の上でサービス提供をしていく。④モニタリングについては、目標に対してサービス提供を行った結果の変化、問題点、見直し、修正、質の管理、そして利用者様、ご家族の満足度について評価をしていく。この4つのプロセスを標準化していくことを目標とし、その結果「利用者様一人ひとりの望む暮らし」を双方に実現できるようにしていきます。



ミドル&ショートステイ ヴィラ白鳥 生活支援室長 新妻 真典

平成27年は介護保険制度の改正もあり、その対応に追われ、私たちの業務も変化を多く求められたこととなりました。その中でもスタッフ一同「翔く！三昧一体で感動を！」という理念に向けて

取り組みができたと感じています。出来たと思われる原因の一つが職員個々のスキルアップにあると思います。一年目より知識も経験も増え、様々なケースの対応ができるようになり、職員も離職率が一年目より大幅に減少したこともポイントだと思っています。サービスの維持・向上のためには継続して働いてくれるスタッフの存在が必要不可欠です。ユニットリーダーが中心となってしっかりと現場がまとまってくれたことが大きかったと思います。

ヴィラ白鳥は開設して今年で三年目。今年は一自宅のように「家族のように」という新たなスローガンを掲げました。スタッフの立場をわきまえて家族のように親身になってケアしてくれ自宅のように安心してくつろげる、お客様にとってヴィラ白鳥がそんな場所になればと思います。皆で掲げたスローガンです。今年一年この新スローガンのもと、お客様の自立支援と満足度向上に向けて職員が一致団結して介護サービスの提供に努めてまいります。



くらしの郷 ミドル&ショートステイ 生活支援室長 門澤 恵介

私は生活相談員のポジションに就き6年目を過ぎようとしています。これまで様々な利用者様とその生活を支えるご家族様にお会いしてきました。特に今年度は介護保険

が改定となり報酬単価の変更やサービス利用の内容が変更となるなど今まで以上に短期入所を利用して頂く魅力（存在価値）を上手くアピールする事が出来なかった点が課題でした。その中で、魅力を引き出す手段として新たに日帰りで短期入所を体験して頂く企画を立ち上げました。具体的に利用者様に宿泊する際、どういった場所でした、どういった環境で過ごして頂くか認知して頂く事で不安を取り除き体験利用を通して幅広く事業所の存在を理解して頂く事が目的です。週間プログラムを立てて日替わりで活動を展開し、くらしの郷でこんな事をやってきた思い出を作りたいと考え、利用して頂く皆様の明日への活力に繋がれるような事業所を目指します。

—あひがひびわごました。